Trident A-Range EQ

概要

オリジナルの Trident A レンジ・デスクは、プロフェッショナルのレコード業界で神話に近い地位を築き、おそらくクラシック Trident コンソールデザインの中で最も愛されています。 特にその素晴らしいプリアンプとカラフルな音色の EQ の独特なバンド・インタラクションで有名です。そして Malcolm Toft / Trident デザインの A レンジ・コンソールはレコード制作時のサウンドに決して消えることのないインパクトを残しました。ロックのゴールデン・イヤーにAレンジはいくつかの本当に偉大なレコード制作に使用されました。デビッド・ボウイの「Ziggy Stardust」、ルー・リードの「Transformer」、そしてクィーンの「Sheer Heart Attack」。この少しの例を挙げるだけでもこのコンソールの評判を永遠のものとするのに充分です。さて、このサウンドは UAD Powered Plug-in プラットホームにおいて Trident A レンジクラシック・コンソール EQ プラグインとして使用可能となります。

Trident オーディオ・デベロップメンツと協力して、UA はポリスやラッシュのアルバムに使用された特定の Trident A レンジ・コンソールの EQ 部分を厳正に分析し、忠実に再現を行いました。

13 台だけ作られた A レンジ・コンソールの内の一台、このデスクはエリオット・スミスによって彼のプライベート・スタジオ用に選ばれ、現在は カリフォルニア州 Van Nuys にある New Monkey Studio にあります。

Trident A レンジ EQ スクリーンショット

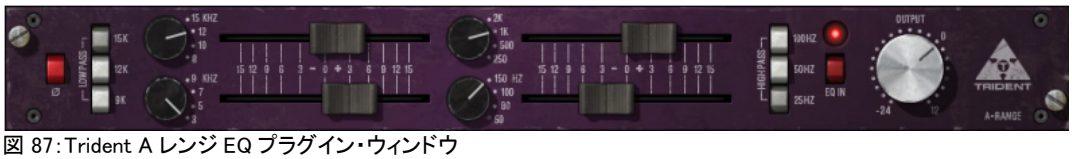


図 87：Trident A レンジ EQ プラグイン・ウィンドウ

操作の概要

ユニークなバンド・インタラクションと異なったカットフィルターの組み合わせ

ボードのユニークなインダクターによるEQセクションは、Trident Aレンジ・サウンドのすべてと言えます。一連の3つのハイパス・フィルターと3つのローパス・フィルターは EQ 部（下の図を参照してください）の端に配置されます。スイッチを同時に押すことができるという点はユニークです。そして、珍しいフィルター・カーブにより異なったカット・フィルター・コンビネーションを提供します。

残りの EQ 部はロー・シェルフ、ローミッド・ベル、ハイミッド・ベル、ハイ・シェルフと 4 つのバンドを持ちます。（下の図を参照してください）各バンドは 4 つの選択可能な固定周波数と±15dB のゲインを備えています。これらはスウィープ可能な周波数、帯域幅コントロールより前の古き良き時代の物でした。しかし、結果は素晴らしく暖かい音楽的な音でした。コントロールに関する補足は、フェイズ、アウトプット・レベル、バイパスの項で詳しく説明されます。

ハイとローのシェルビング・フィルターの間とローミッドとハイミッドのベル・フィルターの間にはバンド・インタラクションが存在します。中心の周波数がお互いに近い場合、中間周波数のインタラクションは重要です。

バンド・レイアウト

4 つのメインEQバンドはすべて似たコントロールを備えています。バンド周波数はノブでコントロールされ、バンド・ゲインはスライダーによってコントロールされます。

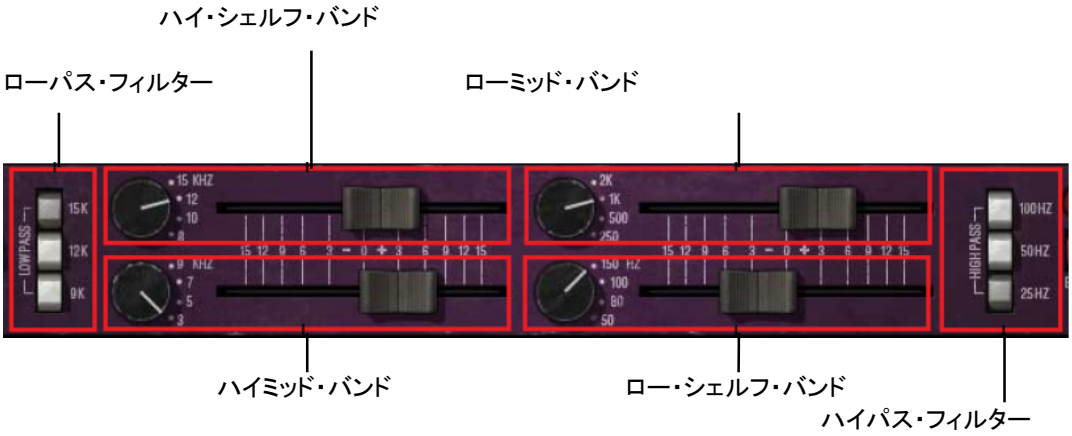


図 88：Trident A レンジ・バンド・コントロール・レイアウト

Trident A レンジ EQ コントロール

フェイズ

フェイズ・ボタン(Ø)は信号の極性を逆にします。ボタンが押しこまれている(より暗い)状態では信号は逆です。ボタンが通常の(より明るい)状態では、フェイズは通常です。フェイズは、EQ IN セッティングから独立しています。

ローパス・フィルター

3 つのローパス・フィルターを使用できます。それらをどの組み合わせでも同時に使用可能です。使用可能なカットオフ周波数は 1 オクターブにつき、12dB のスロープで 15kHz、12kHz と 9kHz です。そのボタンが押しこまれている(より暗い)状態であるとき、各フィルターは作動中です。

各ローパス・フィルターは、他の物に「加えて」使用可能です。たとえば、15kHz フィルターを使用すると 15kHz より高い周波数からロールオフするでしょう。しかし、9K を使用した場合、15kHz を上回った周波数も 15kHz を使用したかどうかに関係なく減衰させます。

注: 下記のバンド・パラメータを示す場合、図 88 と 89 を参照してください。

ハイ・シェルフ

ハイ・シェルフは Trident A の有名なハイ・フリケンシー・シェルビング EQ を再現しています。

ハイ・シェルビング・フリーケンシー

ハイ・シェルフ・フィルターのエッジ・フリーケンシーはこのノブで指定します。4 つのシェルフ・エッジ・フリーケンシーが使用可能です。: 15 kHz、12 kHz、10 kHz、8 kHz

ハイ・シェルビング・ゲイン

ハイ・シェルフ・フィルターのゲインは横向きのスライダーでコントロールします。使用可能な範囲は±15dB です。スライダーがセンター位置にある時、ゲインは 0 になります。

ハイミッド・バンド

ハイミッド EQ は高中域周波数のピーク／ディップ“ベル”イコライゼーションを行います。

ハイミッド・フリーケンシー

ハイミッド・フィルターで使用する中心の周波数はこのノブで指定されます。4 つの周波数を使用可能です。: 9 kHz、7 kHz、5 kHz、3 kHz

ハイミッド・ゲイン

ハイミッド・フィルターのゲインは横向きのスライダーでコントロールします。使用可能な範囲は±15dB です。スライダーがセンター位置にある時、ゲインは 0 になります。

ローミッド・バンド
ローミッド EQ は低中域周波数のピーク／ディップ“ベル”イコライゼーションを行います。

ローミッド・フリーケンシー
ローミッド・フィルターで使用する中心の周波数はこのノブで指定されます。4 つの周波数を使用可能です。: 2kHz、1kHz、500Hz、250Hz

ローミッド・ゲイン
ローミッド・フィルターのゲインは横向きのスライダーでコントロールします。使用可能な範囲は±15dB です。スライダーがセンター位置にある時、ゲインは 0 になります。

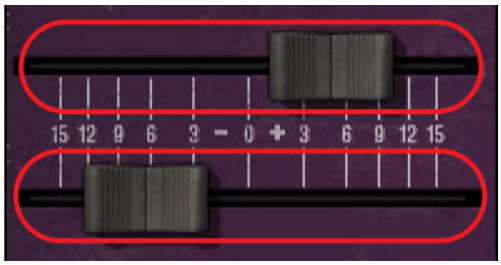
ロー・シェルフ
ロー・シェルフは低い周波数帯でシェルビング・タイプのイコライゼーションを行います。

ロー・シェルビング・フリーケンシー
ロー・シェルフ・フィルターのエッジ・フリーケンシーはこのノブで指定します。4 つのシェルフ・エッジ・フリーケンシーが使用可能です。: 150Hz、100Hz、80Hz、50Hz

ロー・シェルビング・ゲイン
ロー・シェルフ・フィルターのゲインは横向きのスライダーでコントロールします。使用可能な範囲は±15dB です。スライダーがセンター位置にある時、ゲインは 0 になります。

ゲイン・スライダー・ショートカット
バンド・ゲイン・スライダーは、その範囲内をクリックすることによって、どの位置にでもすぐに移動させることが可能です。

Tips: 画面上の文字「0」の上または下をクリックすると双方のスライダーはセンター・ポジションに（ゲイン 0dB）戻ります。



バンド・ゲイン・スライダーは、左記の図の中の赤円の中をクリックすると、どの位置にでもジャンプします。

「0」の近くをクリックするとゲイン 0 に戻ります。

図 89: Trident A レンジ・スライダー・ショートカット

ハイパス・フィルター

3 つのハイパス・フィルターを使用できます。それらをどの組み合わせでも同時に使用可能です。使用可能なカットオフ周波数は 1 オクターブにつき、18dB のスロープで 100Hz、50Hz と 25kHz です。そのボタンが押しこまれている(より暗い)状態であるとき、各フィルターは作動中です。

各ハイパス・フィルターは、他の物に「加えて」使用可能です。たとえば、50Hz フィルターを使用すると 50Hz より低い周波数からロールオフするでしょう。しかし、100Hz を使用した場合、50kHz を下回った周波数も 50Hz を使用したかどうかに関係なく減衰させます。

アウトプット・レベル

アウトプット・ノブは、プラグインからの出力信号レベルをコントロールします。デフォルト値は 0dB です。使用可能な範囲は 24dB～12dB までです。

Tips:ゲイン・ポジションを「0」に戻すために「0」をクリックしてください。

EQ イン

EQ イン・スイッチはプラグインが動作中かどうかを決定します。スイッチが「オフ」(より明るい)位置にある場合、プラグインはオフになり処理はされません。そして(「UAD DSP Load Lock」が使用されていない限り)UAD DSP 使用率は減ります。たとえ EQ インが外れていても、フェイズ・セッティング・スイッチは独立して動作していることに注意してください。

Trident A レンジ・レイテンシー

Trident A レンジ・EQ は、驚くほど音のクオリティを上げるのを容易にするために内部でアップ・サンプリングする技術を使用しています。このアップ・サンプリングを行う技術は他の UAD プラグインよりもわずかに多いレイテンシーが発生します。あなたはこれを補正するために DelayComp、または TrackAdv で「サンプル」パラメータに値を入力する必要があるかもしれません。

***注**:ホストアプリケーションが、信号経路中のいたるところでプラグインのレイテンシーの補正をサポートする場合、またはそれが出力だけで使用される場合、Trident Aレンジ・EQを補正する必要はありません。*

WebZine 記事について

Trident A レンジ・コンソールと、その崇拝された EQ に関する面白い記事は Universal Audio が発行している WebZine の 2009 年 9 月号「Analog Obsession」の項で読むことができます。

・ http://www.uaudio.com/webzine/2009/september/analog.html

Trident A レンジ EQ を特徴とした Trident A レンジ・コンソール

TRIDENT AUDIO DEVELOPMENTS

TRIDENT A レンジ EQ へのすべての視覚と聴覚による引用と PMI AUDIO 社の商標のすべての使用は PMI AUDIO より書面による許諾を得ております。